

## 第3回すばる小委員会議事録

日時：6月17日（火）午前11時5分より午後4時30分（JST）

場所：国立天文台 解析研究棟 TV 会議室（ハワイ観測所、東北大、京都大、岡山観測所と TV 会議接続）

出席者：青木和光、有本信雄、伊藤洋一、太田耕司、川端弘治、浜名崇、松原英雄、本原顕太郎、山下卓也（以上三鷹）  
菅井肇（京都大から TV 会議参加）、市川隆（東北大から TV 会議参加）、吉田道利（岡山観測所から TV 会議参加）  
林正彦（ハワイ観測所から TV 会議参加）

欠席者：臼田知史、高遠徳尚、田村元秀

書記：吉田千枝

### 1 委員長報告

当委員会は光赤外専門委員会の下部委員会として位置づけられているため、今年度の親委員会が発足するまでは正式に発足できない。そのため正式発足まで事務上は「すばる望遠鏡懇談会」として開催する形になるので、ご了承願いたい。

### 2 所長報告

#### ・ 学術会議報告

6/2 の学術会議ヒヤリングにおいて、HSC、WF MOS を含む現状について報告した。委員からは3点の指摘があった。

- 1) 装置開発等による大学との連携をもっと盛んにするように
- 2) SPICA と TMT の棲み分けを明確にするように
- 3) 光赤外のコミュニティはバラバラの感がある。体制の整備が必要

1) についてハワイ観測所としては、大学で製作した小型の装置をすばるに PI 装置として搭載し、データを取って論文を書いてもらうことを推奨したい。そのためには従来の PI 装置受け入れポリシーを大幅に緩和する案を出したいと考えている。装置開発のための資金協力についても多額は無理だがある程度は検討したい。すばる望遠鏡用の赤外装置の WS を観測所主導で三鷹で開催したい。

C: 学術会議はこれまでの認証機関としてのあり方を転換し、方向付けをしてロードマップを作る機関に変わろうとしているようだ。

C: 光赤外分野がいろいろ批判されているのは、こちらの説明戦略のまずさの表れに過ぎない。それぞれの計画のコミュニティ内での位置づけがわかるように説明できれば、印象が違って来るはずだ。大学との連携の問題もこのことに関連している。SAC が取りまとめるとよい。

委員長: ここはすばる小委員会だが、より発展的に活動すべし、ということだろうか。

Q: PI 装置はこれまでどの程度申し出があったのか?

所長: 国内からは CHESSE, Kyoto3DII、外国からは HIPWAC 提案があった。今後カセグレンが利用できると思う。

C: 持込装置の規制を軽減するのはよい方向だ。Kyoto3DII をカセグレンにつけるために製作した汎用コンテナがあるので、今後有効利用してほしい。

C: 装置開発で一番の問題は検出器だ。検出器を観測所で準備してもらえると助かる。

C: 検出器については、資金提供ではなくて現物支給がよい。S-Cam の検出器が替わるが、前のものを欲しい、というのは誰に申し出ればよいのか?

所長: とにかくまず名乗りを上げてほしい。

C: 大学との連携が不足しているのはすばるだけではなく NAOJ 全体の問題だ。

C: サイエンスでは大学と NAOJ は密接に結びついているのだが、装置開発の面では乖離している気がする。改善のためにはボトムアップ方式だろう。

所長: そのための第一歩として先ほどの PI 装置の規制緩和を考えている。WS では持込装置と次期装置開発の両方の可能性を追求したい。次期装置としては広視野赤外カメラと MOAO を検討しているが、TMT に提案されている装置と同じではないか? という人もいる。すばるのために開発した装置が結果的に TMT に貢献することになってもよいと考えている。

C: AO については NAOJ 任せになってしまっている。

C: 装置の話は人事もからむ面もある。

C: 大学と NAOJ の人事交流が大事だが、人と装置と一緒に異動するとよい。

### 3 WFMOS 関係

#### 3.1 コナ会議報告

委員長: WFMOS をすばるに載せる場合、5 年間で 300 夜程度、公募観測の 25% が上限、

この 25% という数字は今後多少変動するかもしれないが、50% はあり得ない、と伝えた。Gemini 所長も同じことを考えていると言っていたが、一方で Dark Energy で 300 夜、Galactic Archeology で 500 夜という話も出ていた。WF MOS 関係者からは装置開発に日本側からの参加がないとうまくいかない、という発言があった。

所長：交渉はこれからなので、日本のコミュニティにとって有利になるように進めてほしい。

C：TMT 計画もある中で WF MOS にマンパワーを割けるのか？すばる側が WF MOS を運用していけるような人事交流が必要だとは思うが。

C：2 年前は日本人はあまり参加していなかったが、今回はサイエンスチームに日本人も加わっていた。技術チームには加わっていないようだが。提案にある全部で数百夜という数字をあまり心配する必要はない。装置が立ち上がる 10 年後にはサイエンスの興味が全然違って、今考えている観測を全部やることにはならないだろう。大事なのは「すばるにユニークな装置があること」だ。

C：装置に関わる人がいない、という話だが、NAOJ でポストを用意することはできないか？

### 3.2 今後の Gemini 側との交渉について

日本側の交渉代表者に山下委員、本原委員を決定した。

委員長：8 月の光天連、冬のすばる UM でコミュニティの意見を十分聞いた上で、結論を出したい。SAC の下に 4-5 人の WG を作って具体的な試案を出すことにしたい。

所長：Gemini との交渉で、何について決めなければならないかもまだ明確でない。それがわかってから案を考えたほうがいいのではないか？

委員長：Gemini との交渉ポイントを詰める前に、グランドデザインを日本国内で検討したい。

C：交渉代表者は、バックにコミュニティの意見を持っていないと困るだろう。

Q：こちらの交渉代表者は決まったが、Gemini 側は誰なのか？

所長：Gemini ではボードが全権を持っている。ボードメンバーの数人が交渉相手になるだろう。

Q：Gemini との協力は WF MOS だけなのか、それとも今後長期的に築いていくのか？

C：それは始めてみて数年後に判断することだろう。

C：それでも WF MOS を載せるとなると協力せざるを得ないので、「Gemini の装置としてこんなものを作ってほしい」と日本側から言えるような道をつけることも契約内容にするのがよいだろう。また、装置の進捗状況をみていく必要もあるので、契約も途中で見直し

を条件にすることも考えらえる。

C : 同時に WFMOS 以外の option も併せて考えていくのがいい。

所長 : WFMOS は必要ないという人に話を聞いてみると、「自分は WFMOS を使わないが、すばるが世界での優位をキープするためには WFMOS が必要だろう」と言われる。

C : 今のすばるユーザーは 30M 級に移行し、岡山ユーザーがすばるユーザーになっていくのではないかな？

C : WFMOS が来ればすばるは 10 年後にも有力な望遠鏡であり続けるだろう。500 夜は大きいけど、サイエンスが進めば解決するのではないかな？

C : これは 4-5M 望遠鏡がかつて歩んだ道だろう。ユニークな観測装置を搭載しなければ、やがて廃れてしまう。

C : 本原委員提案の進め方で問題ないと思う。10 年後に向けて可視 AO の計画はないのかな？

所長 : 可視に限らず AO は重要だ。

WG が次回の SAC に WFMOS 試案を提案し、さらに議論した上で 8 月の光天連に諮ることとした。

#### 4 すばる UM について

協議の結果 2009 年 1 月 14 日～16 日開催と決定した。

#### 5 2009 年京都会議について

- ・ SOC リストの紹介 (委員長)
- ・ LOC からの報告 (太田)

2009 年 5 月 17 日から 22 日まで京大時計台記念館を予約してある。LOC は京大の太田、菅井、戸谷、野村と GEMINI の新田が担当し、レセプション、バンケット、エクスカージョンも企画する。参加者の宿泊先についてはウェブに情報を掲載して各自予約してもらう。最大何人の参加になるのか知りたい。

所長 : Gemini は 150 人参加すると言っている。夫人同伴が多い。

LOC 委員長 : SOC と連携しながら準備を進めたい。

#### 6 次期観測装置提案書 配布報告 (委員長)

250 部作成して、国内 26 大学 5 機関に配布した。

## 7 アジア諸国との協力について

### ・アジア冬の学校（青木）

総研大で毎年分野持ち回りで実施している「冬の学校」が今年は光赤の担当になり、すばる「秋の学校」との合同開催を考えている。12月開催を考えていたが、各国それぞれの都合で来年2-3月の開催になる可能性もある。

委員長：日本の院生にとってもよい刺激になる。すばるユーザーを増やすという狙いもある。シニアの交流にもつなげていきたい。

C：三鷹で開催するだけでなく、PDを派遣して各大学で出張講義などもしてほしい。

C：出張講義はなかなか難しい。学生が三鷹に集まって実施することの利点もある。両方やれば理想的だが。

### ・アジア諸国との研究協力について

委員長：ヨンセイ大、ソウル大、北京大学、中国科学技術大学、ASIAA等との研究協力の話がある。中国とのWSを一度開催してから、中国・韓国・台湾・日本の合同WSを企画したい。中国からはすばるの時間を買いたいというオファーがあったが、「すばるは観測時間をお金で売ることにはしない」と返答してある。

C：中国とは個別の共同研究がいろいろあるようだが、コミュニティ内に周知していない。

Q：LAMOSTの進捗はどうか？

A：できているが、まだ調整が必要でうまくいくかどうかはわからない。

委員長：行事が多いので、来年の京都会議の後に中国とのWSを企画したい。

===資料===

- 1 第3回すばる小委員会議題
- 2 アジア冬の学校 開催計画案（青木）
- 3 2009京都会議SOCリスト
- 4 次期観測装置提案書 配布先一覧
- 5 第2回すばる小委員会議事録

追加資料 WFMOS交渉の進め方案（本原）

=====